

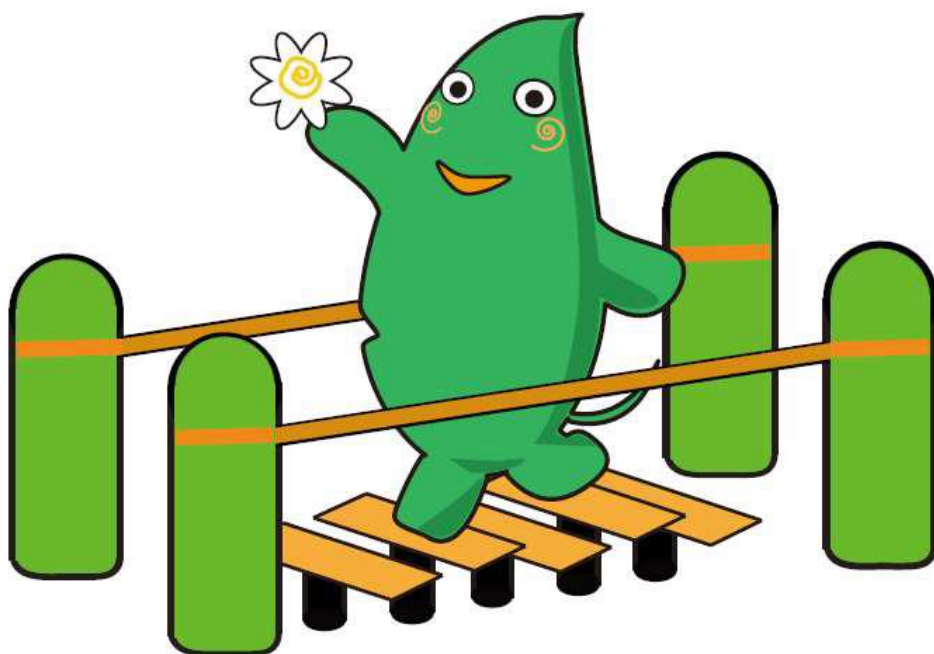


市民活動のシンボルマーク「あの手この手」
Solution(解決)のSを表しています。

大和市

令和3年度

協働事業活動報告書



大和市イベントキャラクター ヤマトン

大和市 市民活動課 / 大和市民活動センター

目次

1. 令和3年度実施 協働事業一覧

2. 各事業の報告



大和市イベントキャラクター ヤマトン

1. 令和3年度実施 協働事業一覧

◆令和2年度提案事業（令和3年～5年度実施予定事業）

	事業名	種類	協働事業者／市の事業担当課
1	大和市民活動センターの管理運営	行政 提案型	拠点やまと／ 市民活動課

◆令和元（平成31）年度提案事業（令和2年～4年度実施予定事業）

	事業名	種類	協働事業者／市の事業担当課
2	障がい者と地域住民とのふれあい体験活動を通じた共助・共生社会の実現を目指す事業	市民 提案型	NPO 法人大和市腎友会／ 指導室、健康福祉総務課
3	家庭訪問型子育て支援 ホームスタート事業	市民 提案型	NPO 法人ワークス・コレクティブ チャイルドケア／ すくすく子育て課
4	入院患者さんの「癒しの場」提供事業	行政 提案型	LickLuck／ 病院総務課

◆平成30年度提案事業（令和元年～3年度実施事業）

	事業名	種類	協働事業者／市の事業担当課
5	中央林間ツリーガーデン運営事業	市民 提案型	中央林間ツリーガーデン運営委員会／ こども・青少年課
6	ドッグラン管理運営事業	市民 提案型	結の会／ みどり公園課
7	地域で支え合う「のりあい」を走らせよう	市民 提案型	地域と市との協働「のりあい」／ 街づくり総務課
8	生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ 「つま読み書きの部屋」	市民 提案型	NPO 法人かながわ難民定住援助協会／ 国際・男女共同参画課
9	地域と学校の連携による大和市立渋谷 中学校学校開放事業	市民 提案型	渋谷きんりん未来の会／ 図書・学び交流課
10	移動制約者の外出介助サービス事業	市民 提案型	NPO 法人ワークス・コレクティブ ケア アビーくる／障がい福祉課
11	移動制約者の外出介助サービス事業	市民 提案型	NPO 法人大和市腎友会／ 障がい福祉課
12	移動制約者の外出介助サービス事業	市民 提案型	NPO 法人たんぽぽ／ 障がい福祉課
13	みんなでつくろう安心のまち事業	行政 提案型	大和女性防犯会／ 生活あんしん課

2. 各事業の報告



大和市イベントキャラクター ヤマトン

1. 大和市民活動センターの管理運営

事業名称	大和市民活動センターの管理運営	
事業者	拠点やまと	
市担当課	市民活動課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	17 年（令和3年度を含む）	
令和3年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 6,896,000 円 市担当課の執行額（注2）： 6,896,000 円	
事業の目的	活動団体の居場所としての市民活動ブース「部室」や市民交流スペースを活用して、活動の支援や様々な市民の交流を推し進める。	
事業の内容	1. 市民活動に関する支援として情報の収集と提供を行う。 2. 市民活動センターに集う人や団体の交流を図る。 3. 中高生やシニア世代などのボランティア活動コーディネート。 4. 市民活動団体と行政の協働の為、市民目線のアドバイスを行う。 5. 市民活動ブース「部室」を含むセンターの管理運営を行う。	
令和3年度 事業実施の 経過	実施日時	実施内容 （イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください）
	通年	市民活動センター／部室／会議室の管理受付業務
	毎週	ホームページ更新・金銭収支・「業務日誌」の発信
	毎月	収支決算チェック
	イベント	情報発信：広報紙「あの手この手」ニュースレター、
	イベント 中止	来館者報告・「拠点やまと会議」「スタッフ会議」
	イベント 代替	共育（ともいく）セミナー ZOOM, インターネット発信
		中高生ボランティア活動「このゆびとまれっ！」
		ベテルギウスまつり「カッコーフェスタ」（活動交流まつり）中止の為⇒ 動画作成・動画配信・電子掲示
	<指標数字>	・ 市民活動登録団体数 156 団体
		・ 会議室使用度数 849 回 （4,384 人）
		・ 部室活用回数 1,316 回
		・ 市民交流スペース人数 1,117 人

（注1）：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

（注2）：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和3年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・④・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 新型コロナウイルスの長期蔓延での環境下、行事開催の回数や参加人数は例年になく低い、内容的にはこちら側から積極的に登録団体や関係者を訪れての情報交換、交流、相談やその内容を広報や情報として広く発信できた。	(コメント) 市民活動に関する相談者に対し、事業者から「市民目線」でのアドバイスをしました。 市民交流については、コロナ感染防止対策のため対面等による事業実施は適いませんでしたが、オンラインによる共育セミナー参加を呼びかけるなど、可能な範囲で実施しました。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・③・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
対面活動の制限の中、やはり当初予定の方法から大幅に異なる実施(在宅勤務、ビデオや動画活動PR、ZOOM 中心のネットワーク、インタビュー形式訪問、登録団体から招待のオンライン集会など)となった。その実施内容としては十分な実施で業務処理できた。	(コメント) コロナ禍で一部の事業開催は困難でした。 しかし、ZOOM を活用した共育セミナー開催や、カッコーフェスタのオンライン開催など、電子媒体を活用する工夫をし、事業実施しました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
事業活動に充てる利用負担金(施設・機器使用料)は4割減となった。購入品目や実績報告・予想値や担当者側からの短期計画など毎月スタッフ間で連絡し合い精度の高い収支報告ができた。	(コメント) エクセルにより収支を適正に管理しており、計画的に事業実施しました。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか（※コメント欄に記入ください）

事業者	市担当課
（採点） 5・4・③・2・1	（採点） 5・④・3・2・1
登録団体や市民との接点が広報誌・メール／Instagram／HP・動画アップ（YouTube）・ZOOMなど間接的な媒体に頼ったが、その作成や相談、打ち合わせ過程で協働の効果があったと思う。	（コメント） 事業者は、市民活動を始めようとして相談にくる方に対し、「市民目線」でアドバイスしていました。 また、共育セミナーでは、人脈をいかし、様々なゲストスピーカーを招いて実施していました。 協働事業による事業者ならではの事業展開です。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
市民に対して積極的に接する、各人の業務担当に於いてリーダーシップをとる等、自分が表に出て業務を遂行できる体制を目指す。 ZOOM 研修・講義・会議・話し合い等、交流対象や範囲が大和市を超えて大幅に広がった。このようなインターネット効果をこの機会に今後も続けたい。 スタッフの“若返り”はスキルの維持向上と共に今後も継続して行っていく。	事業者内にメンバーが二人増え、新しい空気が流れるようになりました。 コロナ禍で、オンラインなど工夫し実施している事業も多いですが、実施出来ない内容もあります。 今後も事業者と一体になって実施できる内容を検討実施してまいります。

２． 障がい者と地域住民とのふれあい体験活動を通じた共助・共生社会の実現を目指す事業

事業名称	障がい者と地域住民とのふれあい体験活動を通じた共助・共生社会の実現を目指す事業	
事業者	NPO 法人 大和市腎友会	
市担当課	指導室、健康福祉総務課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	11 年（令和3年度を含む）	
令和3年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 21,520円 市担当課の執行額（注2）： 円	
事業の目的	①小中学生という若い日に、障がい者が日頃感じていることや生き方を知り、自分の健康や生き方、災害時の共助を考えてもらうため ②地域の防災訓練では、参加者に障がい者への災害時の共助と共生を考えてもらうため	
事業の内容	①透析者が、透析による身体的、経済的、精神的苦しさや、健康がいかに大事か、災害時自力での避難に不安をもっていることを、小中学生に知ってもらい、弱者への気遣いの願いと、共助を考えてもらう ②透析者が、地域防災訓練に参加し参加者に身近な障がい者の存在を知り、共助と共生の在り方を考えてもらう	
令和3年度 事業実施の 経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	3. 9. 10 3. 7. 29 3. 8. 5 3. 10. 26 3. 9. 9	① 鶴間中学校2年生とのふれあい体験 ・講師依頼 ・実施要領策定 ・現地事前調査 配信設備及び要領確認のため学校訪問 ・生徒事前学習 各クラス1時間、腎不全・透析について学習 参考資料として「透析を受けられる患者さんへ（中外製薬）」を提供 ・人権・福祉学習 講師（透析者）2名 ボランティア3名 生徒 4クラス 114名 中央林間小学校4年生とのふれあい体験 ・コロナ禍により中止 ② 地域防災訓練 ・コロナ禍により中止

（注1）：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

（注2）：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和3年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) ふれあい活動の中で大切なことは、障がい者との人間関係づくりを構築することであり、互いの信頼関係を築くことである。全ての人々がそれぞれ役割を持ち、支えながら、助け合いながら暮らせる地域は、他人が作ってくれるわけではなく、自分たちで作り上げていく必要がある。活動を通じて、小中学生のころから意識し、一人の「地域人」となっていくための初めの一步を踏み出すことにつながる機会になったと思う。	(コメント) 課名:指導室 昨年度の課題「腎友会のお話をいただく皆さまは、基礎疾患を抱えていらっしゃる。この事業をこれまでのように継続していくには、コロナ禍における取り組み方を考える必要がある」を達成することができた。(下記実施手法参照)
	(採点) 5・4・③・2・1
	(コメント) 課名:健康福祉総務課 避難行動要支援者の地域防災訓練の主管課としては、今年度の訓練が中止となったため、関わりはなかった。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 人工透析という、多くの生徒たちの日常の中では、あまり触れる機会がないテーマのなかで、実際に地域に住んでいる透析者から話を聞いたのは、身近なところで透析について考えるきっかけになったのでは。一方で、コロナ禍でのふれあい活動のため既存の「学習用テレビ配信システム」を活用。直接対面しないライブ配信方式で実施した。	(コメント) 課名:指導室 鶴間中学校においては、学校や腎友会と密に連絡を取り、「一人一台端末」を活用して、上記本年度の目標であり、かつ昨年度の課題であった感染対策をした上での開催を行うことができた。
	(採点) 5・4・③・2・1
	(コメント) 課名:健康福祉総務課 避難行動要支援者の地域防災訓練の主管課としては、今年度の訓練が中止となったため、関わりはなかった。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) コロナ感染症の影響を受け、当初の予算を下回った。満足な活動が出来なかった中で、開催できたのは1件に留まり2件は見送られた結果である。余剰金については、今後のボランティア活動に役立てたい。	(コメント) 課名：指導室 実施校にて、スケジュールどおりに実施できた。予算は、ありません。
	(採点) 5・4・③・2・1
	(コメント) 課名：健康福祉総務課 避難行動要支援者の地域防災訓練の主管課としては、今年度の訓練が中止となったため、関わりはなかった。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか（※コメント欄に記入ください）

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 行政側から、実施校への調整・案内及びコロナ禍での実施方法などの助言を受けたことにより、教職員をはじめ関係者に対する団体の透明性と信用力の向上を図ることができた。	(コメント) 課名：指導室 共生社会の観点から、児童・生徒にとって、直接お会いして透析のお話をしていただける貴重な機会は、今後も必要であると考えます。
	(採点) 5・4・③・2・1
	(コメント) 課名：健康福祉総務課 避難行動要支援者の地域防災訓練の主管課としては、今年度の訓練が中止となったため、関わりはなかった。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
高齢化や人口減少が進み、地域や学校といった人々の生活領域における支え合いの基盤が弱まってきている。 人と人とのつながりが弱まる中、これを再構築することで、様々な困難に直面した場合でも、誰もが役割を持ち、お互いが配慮し存在を認め合い、そして時に支え合うことで、孤立せずにその人らしい生活を送ることができる社会としていくことが求められている。 「共助」「共生」の2つを重点に位置づけるとともに、引き続き関係者が互いにその必要性、意義等について十分に理解し合うことを高められるよう事業推進していきたい。	課名：指導室 特にありません。今後も事業者と連絡を密にとって進めていきたいと思います。
	課名：健康福祉総務課 コロナ禍により、防災訓練の計画が立てにくくなっている地域も多い。地域防災訓練の計画の動向を注視し、事業者と事業展開を図っていきたい。

3. 家庭訪問型子育て支援ホームスタート事業

事業名称	家庭訪問型子育て支援ホームスタート事業	
事業者	NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ チャイルドケア	
市担当課	こども部すくすく子育て課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	2 年（令和 3 年度を含む）	
令和 3 年度 決算予定	事業者の負担額（注 1）： 417,367 円 市担当課の執行額（注 2）： 129,820 円	
事業の目的	家庭訪問型支援活動を推進し、子育て中の親の負担軽減、親子の精神的安定を図る。	
事業の内容	6 歳未満の子どもがいる家庭に、研修を受けた地域の子育て経験者が、週に 1 回 2 時間程度訪問し、傾聴や親と一緒に子育てや外出をする子育て支援ボランティア活動。 市等が実施する様々な子育て支援施策が上手に利用できない、支援が届いていない、支援の隙間で誰かの手助けを必要としている「気になる家庭（虐待やトラブル等が発生していないが、ストレスの高い孤立家庭）」に支援を行う活動。	
令和 3 年度 事業実施の 経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	R3.4.1～ R4.3.31	訪問・・・24 名・延べ 119 回

（注 1）：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

（注 2）：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和3年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・③・2・1	(採点) 5・4・③・2・1
(コメント) コロナ禍において、出産後の乳児を持つ親が自宅から出られないので孤立感が強く、ホームスタートの利用に繋がっている。訪問することによってよい効果が見られるようになってきた。	(コメント) コロナ禍において、ボランティアが訪問することにより、子育て家庭の孤立感を緩和することに役立っている。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・③・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 基本の方法でできたが、コロナ禍でオンラインを希望する利用者が数名いてオンライン対応をした。 運営委員会と内部のビジター研修はコロナのため開催を見合わせた。	(コメント) オンライン対応やマスク着用・アルコールの徹底など、感染対策を工夫し、コロナ禍においても、事業を適切に実施できた。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課
（採点） ⑤・４・３・２・１	（採点） ⑤・４・３・２・１
（コメント） 当初予算は 591,580 円だったので、予算内に実施できる見込み。	（コメント） 市の当初予算 129,820 円で実施できている。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか（※コメント欄に記入ください）

事業者	市担当課
（採点） ５・④・３・２・１	（採点） ５・④・３・２・１
（コメント） 認知度の低かったホームスタートを各家庭に訪問したときにご紹介してくださり、ホームスタートの利用に結びついた。 紹介された家庭の中には結果的にホームスタートにはなじまない家庭があった。	（コメント） コロナ禍で子育てに関する各種イベント等が中止になる中、ホームスタートを希望する家庭をボランティアが訪問することにより、子育て家庭の孤立を防ぐことができた。また、育児相談などの行政による支援につながった事例があった。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
○活動を支えるビジター数の確保。 ○コロナ禍でもビジターになった後のレベルアップ研修とトラスティ会議を開催したい。 ○予算の確保。	・市民への周知と利用者の増 ・コロナ禍における感染対策の強化

4. 入院患者さんの「癒しの場」提供事業

事業名称	入院患者さんの「癒しの場」提供事業	
事業者	LickLuck	
市担当課	病院総務課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	8年（令和3年度を含む）	
令和3年度 決算予定	事業者の負担額（注1）：	0円
	市担当課の執行額（注2）：	0円
事業の目的	大和市立病院に入院されている入院患者様への入院生活の中で癒しの一時を提供することを目的とする。	
事業の内容	年に2～3回程度、大和市立病院内にて院内コンサートを実施する。	
令和3年度 事業実施の 経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
		新型コロナウイルス感染症が流行したため、開催を中止しました。

(注1)：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

(注2)：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和3年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・ 3 ・2・1	(採点) 5・4・ 3 ・2・1
(コメント) 新型コロナウイルス感染症が流行したため、 開催を中止しました。	(コメント) 新型コロナウイルス感染症が流行したため、 開催を中止しました。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・ 3 ・2・1	(採点) 5・4・ 3 ・2・1
(コメント) 新型コロナウイルス感染症が流行したため、 開催を中止しました。	(コメント) 新型コロナウイルス感染症が流行したため、 開催を中止しました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・ 3 ・2・1	(採点) 5・4・ 3 ・2・1
(コメント) 新型コロナウイルス感染症が流行したため、 開催を中止しました。	(コメント) 新型コロナウイルス感染症が流行したため、 開催を中止しました。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか（※コメント欄に記入ください）

事業者	市担当課
（採点） 5・4・ 3 ・2・1	（採点） 5・4・ 3 ・2・1
（コメント） 新型コロナウイルス感染症が流行したため、開催を中止しました。	（コメント） 新型コロナウイルス感染症が流行したため、開催を中止しました。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課

5. 中央林間ツリーガーデン運営事業

事業名称	中央林間ツリーガーデン運営事業
事業者	中央林間ツリーガーデン運営委員会
市担当課	こども・青少年課
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型
協働事業 経過年数	15年（令和3年度を含む）
令和3年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 円 市担当課の執行額（注2）： 1,330,580円
事業の目的	地域の子どもたちが自然環境の中で外遊びを通して、さまざまなことに興味を持ち、自分のやり方や自分のペースで、創意工夫をし、挑戦し、失敗し、それをのりこえて、多様な生きる力や社会性、人間性を育むことのできる場を提供・創造することを目的とする。
事業の内容	1. 緑野青空子ども広場における「中央林間ツリーガーデン」（プレーパーク）の定期的（土・日・祝祭日）開催。 2. プレーリーダーの養成を目的に研修会を開催し、人材育成を図り、子どもの健全育成に資する。 3. 地域への情報発信を行ない、親睦を図っていくなど地域活性化に寄与する。
令和3年度 事業実施の 経過	実施日時・実施内容 （イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください） <総会> 5月に書面開催としました。 <運営会議> 毎月開催（8,9月は緊急事態宣言のため委員のみ） 通常活動ができない中、「新公園」についての意見交換や提案を行いました。9月以降、地域住民や大和市議会議員、プレーパーク関係者の会議参加もあり、新公園への期待の高さが窺われました。また、協働事業終了に伴う備品の処分などを検討しました。 <プレーパーク活動> 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、殆どの活動休止を余儀なくされました。「コロナ対策に十分配慮して」7月に3日間、10月から1月に約30日間のプレーパークの開催を行いました。 1月22日～①ツリーガーデンロゴ焼印をツリガの木片に刻印して記念品（コースター、鍋敷き等）として配布②8年前のタイムカプセルの返却をコロナ感染防止策の下、行いました。

（注1）：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 — 市負担金

（注2）：市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和3年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・ <u>3</u> ・2・1	(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1
(コメント) 協働事業としての土日の「プレーパーク」は、殆ど、開催できませんでした。 しかしながら、「場」の提供はできましたので、平日も含めて多くの子どもたちの遊び場となっています。	(コメント) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、長らくプレーパークを中止にしておりましたが、7月に数日と10月から1月中旬にかけてプレーパークを開催することができました。 事業者が実施する会議に参加し、目的の確認や情報共有を図ることができました。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・ <u>3</u> ・2・1	(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1
(コメント) 開催時においては、新型コロナ感染対策を十分に行い、実施しました。 また、花植えは事前呼びかけでなく、当日声掛けで実施しました。 事業の終了に向けて、備品・構築物の撤去、処分、譲渡やぞうのおり、デッキの補修整備などを行いました。	(コメント) 事業者と『中央林間ツリーガーデン運営委員会新型コロナ対応指針』を作成し、コロナ対策を講じながら、一定期間プレーパークを実施することができました。 平日に施設の見回りを行い、改善が必要な箇所の把握に努めました。また、事業者が行う会議に出席することで、プレーパークや3月末の事業の終了に向けて、必要な情報提供を行い、事業者との連絡調整を行いました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1	(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1
(コメント) 主たる活動がありませんでしたので、負担金は大幅に剰余となりました。 事業終了のため、備品などの処分費が発生しました。	(コメント) 事業目的の確認、施設の管理などは計画的に行えました。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 近隣地域のプレーパークは活動している状況や隣接の「星の子広場」(市の施設)が開放している中で、ツリーガーデンにおける遊具を出しての活動が制限されたことが残念でした。一方、「新公園」に関しての情報開示が進まなかったため、利用者から不安の声が多数寄せられました。地域への認知度、浸透度を感じました。 協働事業の効果として、担当課からみどり公園課にもアプローチいただき、運営会議への出席や新公園の取り組みについても一定の成果がありました。	(コメント) コロナの影響を大きく受けたものの、施設の管理や、プレーパークの開催など、行政、事業者双方がそれぞれの役割を果たし、概ね効果的に実施することができました。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
協働事業は、今年度で終了します。 大和市には、冒険あそび場（プレーパーク）の意義を十分ご理解いただき、また、新公園を含めて市内のどこかの場所に「冒険あそび場（プレーパーク）」の活動があることを希望します。	令和4年3月31日で事業が終了し、緑野青空子ども広場は、公園として整備されます。 15年間のプレーパークやイベントなどを通じ、たくさん子どもたちが訪ねてくる場所となったこと、事業の目的である『地域の子どもたちが自然環境の中で外遊びを通して、さまざまなことに興味を持ち、自分のやり方や自分のペースで、創意工夫をし、挑戦し、失敗し、それをのりこえて、多様な生きる力や社会性、人間性を育むことのできる場を提供・創造すること』を事業者と共に実現することができました。

6. ドッグラン管理運営事業

事業名称	ドッグラン管理運営事業	
事業者	結の会	
市担当課	みどり公園課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	15 年（令和3年度を含む）	
令和3年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 110,000円 市担当課の執行額（注2）： 973,000円	
事業の目的	犬のしつけとマナーの向上及び、犬と人との触れ合いを通して 会員相互の親睦を図り、ドッグランの運営を介して地域社会に 貢献すること。	
事業の内容	会員登録説明会の企画運営（グリーンアップセンターにて3か月毎） 毎月第3日曜日に犬同伴の公園清掃（夏季7・8月を除く） ドッグランの運営及びイベント企画	
令和3年度 事業実施の 経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
		会員登録説明会（於；グリーンアップセンター研修室・コミュニティセンター集会室）
	2021.06.06(日)	第51回 58組 + 7名（参加者 + 役員）
	2021.09.04(土)	第52回 コロナ感染症拡大防止に伴い中止
	2021.12.05(日)	第53回 64組 + 7名（参加者 + 役員）
	2022.03.05(土)	第54回 コロナ感染症拡大防止に伴い中止
	2021.06.20(日)	定期清掃 22名 30頭
	2021.09.19(日)	定期清掃 コロナ感染症拡大防止に伴い中止
	2021.10.17(日)	定期清掃 雨天中止
	2021.11.21(日)	定期清掃 20名 25頭
	2021.12.12(日)	定期清掃 34名 52頭
	2022.01.16(日)	定期清掃 40名 60頭
	2022.02.20(日)	定期清掃 雨天中止
	2022.03.20(日)	定期清掃
		12月12日は臨時総会及び場内の大掃除を実施

（注1）：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

（注2）：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和3年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・ <u>(4)</u> ・3・2・1	(採点) 5・ <u>(4)</u> ・3・2・1
(コメント) コロナ感染拡大防止の為、9月と3月の新規登録会が中止となりましたが、実施できた6月12月は多数の応募があり、感染対策として検温・消毒のほか、2部制にして人数を制限する等、工夫して行いました。	(コメント) 新型コロナウイルス感染拡大の終息が見通せない中、登録説明会や清掃活動など、感染対策を徹底し可能な範囲で実施した。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) <u>(5)</u> ・4・3・2・1	(採点) <u>(5)</u> ・4・3・2・1
(コメント) コロナ禍でしたが、定期清掃や草刈りは野外の為、予定通りに実施。新規会員をはじめ、多数の参加がありました。 従来のホームページ、掲示板だけではなく、新たにSNSを使い、会務の告知、会員へのアンケートなどを行い、会員の声をより幅広く聞けるツールを導入しました。	(コメント) 登録説明会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、4回実施予定のうち2回を中止したが、それ以外は感染対策を徹底のうえ予定通り実施した。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) 5・ <u>(4)</u> ・3・2・1	(採点) 5・ <u>(4)</u> ・3・2・1
(コメント) 草刈りや施設の維持等に必要な資材等は購入しつつ、予算が限られている中で、テーブルや椅子、物置き、人工芝など、会員からの善意の寄付が増えており、助かっています。	(コメント) 予算の範囲内で、計画的に事業を実施した。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1	(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1
(コメント) 市は施設の全体管理、結の会はドッグランの運営や維持管理と、それぞれの役割が明確なので、連携も取り易く、効率的に動いていると思います。	(コメント) 施設の維持管理や運営のほか、登録説明会の広報や申し込みの受付など、それぞれの役割をしっかりと行い、年間を通し適切に事業を実施した。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
スカイ広場が出来て1年が経ち、当初のゴミ問題も多少落ち着いてはいるようですが、風向きによっては色々飛んでくることもあるようです。 ドッグラン内外での会員のマナーの向上や、会務への積極参加の呼びかけなど、来年度も引き続き積極的に行っていきたいと思います。	スカイ広場利用者側への注意喚起や啓発を引き続き実施していく必要がある。

7. 地域で支え合う「のりあい」を走らせよう

事業名称	地域で支え合う「のりあい」を走らせよう	
事業者	地域と市との協働「のりあい」	
市担当課	街づくり総務課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	12 年（令和 3 年度を含む）	
令和 3 年度 決算予定	事業者の負担額（注 1）： 約 19,000 円 市担当課の執行額（注 2）： 43,255,000 円 （内、バス事業者への委託費：42,500,000 円）	
事業の目的	交通の利便性を高め、地域公共交通の新たな創出、地域のコミュニケーションを作り、住み心地良い地域づくりを目指す。	
事業の内容	地域で市との協働により、支え合える移動手段の創出、運営と地域住民のつながりを深め、福祉、防犯、交通安全等への意識を深める。	
令和 3 年度 事業実施の 経過	実施日時	実施内容（イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください）
	<令和 3 年度事業実績> ◆運行事業：相鉄バス(株)による運行 運行日数 365 日（土日祝日含む）利用 23,500 人（年間見込み） ◆添乗：11 人 本年度も、添乗支援活動は市との協議により中止とした。→日々の停留所及びその周囲での見守り、見送りと自治会内の停留所周辺の清掃とルート 1 周の清掃を定期的実施 ※地域利用者の状況、様子の確認と地域の安全な環境の整備等 ◆地域でサポーター：30 人 地域サポーターとして、添乗を辞めた方々も、これまで同様、それぞれの地域で連絡、確認等の協力を継続（頻度的にはコロナ禍もあり、現在、辞めた方は情報連絡が主・・・主に、元利用者のその後の様子等の情報含む） ◆運営：スムーズな運行に向けた取り組み 運営委員会（月 1 回実施）、バス停環境整備（延べ 600 人参加）、地域クリーン活動（48 回実施）（延べ 720 人）、ニュース発行（月 1 回 No.132～No.142）、感染予防対策（地域への情報提供・注意喚起）、車内忘れ物対応、時刻表示の剥がれ等対応他、その他工事等の掲示 ◆ルート上の工事、迂回運行・遅延等の連絡を受け、各地域への情報伝達 ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、下記項目について令和 3 年度も中止 ・役員会（年 4 回）、地域交流会（年 1 回） ・添乗活動（車内でのサポート・交流）及び、地域内での接触サポート	

・地域のお祭り等（泉の森盆踊り、子安児童館祭り）への参加→地域でも行事の開催無し ◆バス停移設に向けた周辺住民との調整（西鶴間5号公園バス停（No.19）） <令和3年度通年の課題> ◆運行は主に市とバス事業者、地域で運営を担いつつ、スムーズな運行及び利用の継続と新たな利用の推進に向けた取り組みの構築、乗り残しへの対策（乗り残し対策、今後へ） ◆9自治会との連携、協力関係の維持、個別の話し合いも重ね、次年度への協力継続に向け、理解を得る（地域の安全環境にかかわる事項は、関係自治会に連絡を取り協働対応） *公園内からの子供の飛び出し注意、停留所周辺へのゴミのポイ捨て注意表示等	
通年4月～3月	◆毎月月末の日曜日、運営会議を実施
4月～3月	◆コロナの変異株が続き、市からは、添乗乗車の許可とならず。全添乗者が、予防接種もしていますが、今年度も外側からの見守り実施。 ◆添乗のシフトを毎月計画し、それに沿って、近隣停留所・ルート清掃・整備及び、運転士への挨拶・利用者の支援を実施 ◆毎月、全ルートを4分割して、全員参加で、グループ分けした清掃途中中でののりあいと乗車の方々を見送りの活動で、地域コミュニティの向上にも寄与。
4月9日	◆のりあい会計打ち合わせ
4月18日	◆のりあい会計監査（2020年度）
4月20日	◆9自治会長と2年度事業報告、3年度事業計画を書面による役員会として協議実施、確認。
5月23日	◆街づくり総務課に2年度事業報告、3年度事業計画提出、協議 ◆NPO法人かながわ福祉移動サービスネットワーク総会・学習会（オンライン参加）
6月12日	◆全国移動ネット総会（オンライン参加）「地域交通関連の法制度」
8月13日、23日	◆街づくり総務課と乗り残し等含め、話し合い
9月25日	◆「のりあい」近況について、9自治会長に書面で報告、確認
10月20日、30日	◆停留所移設について、自治会長、住民との話し合い、確認
10月25日	◆街づくり総務課と検討課題について話し合い
12月22日	◆街づくり総務課と打ち合わせ
令和4年3月6日	◆かながわ福祉移動サービスネットワークセミナー（オンライン参加）
3月23日	◆停留所関係について、警察、市担当との現地調査確認
3月29日	◆乗り残し課題について、相鉄バス(株)との打ち合わせ

(注1)：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

(注2)：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和3年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) ・昨年度以降、添乗は中止の状態。昨年同様、市役所停留箇所での聞き取り、情報共有をし、利用者、運転士との連携を図る。 ・市役所からは、運行に関する緊急連絡、工事等の情報を共有し、利用者にスムーズに連絡がとれるよう心掛けた。 ・車内の添乗のように、利用者の様子が把握できない部分はあるが、停留所周辺の清掃と、利用者の見送り、見守りの継続により、利用の方々との情報共有は、一定保つことで、利用者の状態の変化等、共有を保つことができ、ある程度、スムーズな運営ができています。	(コメント) ・のりあい運行による地域公共交通の実現に向けて、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、取り組みを継続している。 ・添乗による乗降補助や車内でのコミュニケーションについては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止することとなったが、車外活動を中心にコミュニティ形成に寄与する活動を継続した。 ・「のりあいニュース」を発行し、利用状況などの情報を地域住民と共有した。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) ・添乗として同乗ができない中での工夫を重ねているが、出会いの機会がどうしても減ることと、長期に渡るコロナ禍での生活で、気力を無くす方も見受けられ、声掛けの訪問も控えているため、停留所での見守り見送りでは補えない状況が増加している。 ・忘れ物、落し物連絡の対応も、相鉄バス(株)とのりあいでは継続できているが、本人が気づかない状況が増加。 ・外出だけののりあいではない部分の必要性を実感しているが、2年間の添乗中止状況で、スムーズな担い手の移行ができていないのが、今後の大きな課題と考えられる。	(コメント) ・のりあいの運行は予定どおり実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、添乗による乗降補助や車内でのコミュニケーションについては、中止することとなった。 ・これに伴い、事業者では、車両乗車以外の方法を工夫し、車外活動による利用者支援や利用環境整備を行った。 ・また、運営会議、地域交流会が中止となった。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) ・通常の添乗業務の代替に、日々、関係者で補う活動に人と時間を配したが、通常の添乗と違い、そこへの新規参加が、思うように対応できなかった。(市からの支援金対応部分) ・関係自治会からの支援金は、例年通りの協力を今年も得られ助かりました。(減額維持確認)	(コメント) ・予算内で事業を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響による事業計画の変更に伴って、市負担金の支出額が減少した。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) ・協働事業で、市の事業委託により、日々の運行が維持されたことは、大きい。 ・福祉有償運送の車両では、運転とサポーターは、一緒に運行に従事していたが、のりあい、添乗がそういった位置づけに無く、根本的な添乗の位置付けへの認識が、やはり、付属という状況。今後、まだまだ、福祉の対象人数が多くなり、今以上に歩行がやっとの状態で利用の方が増加する中、添乗の継続が維持されていくことを期待したい。(移動の足だけののりあいではない所が、共通認識となることを願っている。)	(コメント) ・のりあいの運行を市が、バス停の環境整備、迂回・運休時の対応補助等を地域が行う協働体制により、サービス提供側と利用者側とで共に事業を支える関係をつくることのできている。 ・バス停の移設に向けて、協働事業者によって自治会・周辺住民等への説明が行われ、移設手続きを順調に進めることができた。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
1. 地域の外出支援向上に努め、利便性を高める 2. 添乗の交替期は、まだ継続中であり、新たな参加者をさらに増やす（コロナ禍２年でより困難） 3. 有償ボランティア活動の意義を共有し合う 4. 市、委託事業者、のりあい三者での体制の更なる充実 5. 乗り残しへの対応策が具体的に検討されつつあり、地域、利用者にとって、良い具合に進むことを期待している。(乗り残し対策への相鉄バス㈱からの具体提案が稼働し、利用者からの良かったとの声が聞かれることを期待している)	・乗り残しの対策や、交差点の比較的近い場所に設置しているバス停の安全対策について、課題を共有し、事業者（のりあい事務局・協力自治会）とともにその解決策について検討していく。

8. 生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つま読み書きの部屋」

事業名称	生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つま読み書きの部屋」	
事業者	NPO法人 かながわ難民定住援助協会	
市担当課	国際・男女共同参画課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	12年（令和3年度を含む）	
令和3年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 14,303円 市担当課の執行額（注2）： 70,000円	
事業の目的	多文化共生社会の実現を目指して、同じ地域に住む日本人と外国人市民が相互理解を深めるとともに、外国人学習者の日本語読み書きのスキルアップと日本の生活・文化・習慣への理解を高めていく。	
事業の内容	上記の目的を達成するため次に掲げる事項を行う。 ① 日本語教室の開催 ② ボランティアスタッフの育成 ③ 成果物の作成とホームページ公開 ④ SNSを活用した教室活動の紹介	
令和3年度 事業実施の 経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	R3/6/8	第1期資料検討会 スタッフ4名、市担当課1名
	R3/6/14～6/29	第1期教室（保健福祉センター、生涯学習センター） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
	R3/9/14～28	ボランティア研修講座（生涯学習センター） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
	R3/10/5	第2期資料検討会 スタッフ4名、市担当課1名
	R3/10/11～26	第2期教室（保健福祉センター、生涯学習センター） ※生涯学習センターのみ実施（5名）
	R4/2/8	第3期資料検討会 ZOOM会議を使用してオンラインで実施（4名）
	R4/2/7～22	第3期教室（保健福祉センター、生涯学習センター） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

（注1）：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

（注2）：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和3年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1	(採点) 5・4・ <u>3</u> ・2・1
(コメント) 6月・3月の講座及びボランティア研修講座は、予定し、準備も進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止せざるを得なかった。10月の講座は、各スタッフが工夫を凝らした内容で様々な分野での授業展開だった。使用した教材や授業の様子などはHPで公開するとともにFacebookも活用して教室からの情報伝達を図った。 Zoomによるオンライン講座も検討したが、ボランティア側も学習者側もグループでの学びを実践するには問題があると思われ、検討を重ねたが、断念した。	(コメント) ホームページ上で講座内容を紹介し、また教材を公開するなど、やさしい日本語を活用しつつ一つの側面からは、目的達成のためにアプローチできている。 一方で外国人学習者が、地域で生活する上で必要と考えられる日本語の読み書きの能力を高めるべく、実践的な学習の場を設けることについては、コロナ禍によって日本語教室の実施回数が少なくなってしまう、また当該教室を開催する手段としてのボランティアスタッフを新たに育成できていない点でも、残念ながら未達である。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1	(採点) 5・4・ <u>3</u> ・2・1
(コメント) 全講座に向けて授業の準備をしていたが、コロナウイルス対策をしても感染のリスクがあることを考え中止しなければならないことが多かった。 第2期講座のみ、コロナウイルス対策をしながら日常生活にかかわるテーマを題材にした授業を行うことができた。申し込みは複数名あったにもかかわらず、急遽キャンセルになるなど新型コロナウイルスの影響が見られた。 学習者とのつながりや学習者が日本語に触れる機会を増やすため、スタッフの近況や学習者へのアンケートを発送し、回答を得た。	(コメント) 外国人学習者への年間3期(1期毎昼夜各3回)の講座と、ボランティア講座1期(3回)の開催に向けて年間スケジュールを立て、各回受講者募集の動きをかけていたが、結果として今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止策により、一部を除いた多くの講座について、開催を中止とした。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課
（採点） 5・4・3・2・1	（採点） 5・4・3・2・1
（コメント） 講座に向けて、コロナ対策のため消毒用のアルコールなどを予算で備えた。ボランティア同士の交流や意見交換などを目的にオンラインでの会議を行った。 講座は中止となることが多く、スタッフの交通費などが発生せず、使用しなかった予算は戻入れた。	（コメント） 予算の中で、内容検討のオンライン会議や講座運営及び教材・資料準備を実施することができた。昨年度に引き続き、執行残が発生したため、適切に戻入処理いただいた。 収入について、参加者数の減少や講座の中止などが影響して微々たる金額となっているが、ただ参加を増やすだけの目的で値下げしない方針には、一貫性を感じている。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
（採点） 5・4・3・2・1	（採点） 5・4・3・2・1
（コメント） 講座会場の確保や使用する機材の手配、受講者募集などを担っていただき、教室の運営に集中できた。講座の中止の判断など、地域の新型コロナウイルス感染拡大を踏まえたアドバイスをいただいた。	（コメント） 市と事業者で役割を分担することで、運営の効率化が図られた。 役割 市側⇒講座開催に伴う場所・機材確保、広報を活用した参加者の募集 事業者側⇒講座の講師含めた講座実施にかかる教材作成等一連の事務及び学習者とコミュニケーション活動の実施。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
ボランティア研修講座後に参加希望があっても講座が開催できない状態で、なかなか継続的に参加できる方がおらず、ここ数年で運営するスタッフの人数が減少してしまった。今期は研修講座を行い、ボランティアメンバーを増やし、継続的に活動できる人材を育てていきたい。 今後、感染防止を行いながら、どのような教室形態で、どのように読み書きのスキルアップを主眼とした日本語学習の提供ができるかを検討していくべきだと考えている。	外国人市民に対して日本語を教えるボランティアスタッフの人数が不足しており、それに伴うスキルの継承、人材育成が最優先の課題であると考えている。 また今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら講座を開催することができたが、昨年度同様、コロナ禍においても外国人学習者の学習機会の確保、事業の継続的な実施について検討していく必要がある。

9. 地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業

事業名称	地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業	
事業者	渋谷きんりん未来の会	
市担当課	図書・学び交流課	
提案分類	市民提案型	・ 行政提案型
協働事業 経過年数	19年（令和3年度を含む）	
令和3年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 0 円 市担当課の執行額（注2）：8,665,461 円	
事業の目的	新しい公共の創造に寄与することを基本とし、地域住民の生涯学習を推進し、交流できる居場所として渋谷中学校との連携のもと、活力ある住みよい地域となることを目的とする	
事業の内容	1) 会議室、特別教室の市民への貸し出しなどを通じた市民活動の活性化事業 2) 地域ニーズに基づいた生涯学習の推進支援事業 ・ 地域住民の生涯学習の推進、交流の場となる活動の支援 3) 下和田地区の児童館機能、子どもや保育者・中高生・一般などの居場所としての事業 ・ 地域の人々の憩いの場、学びの場として日々充実した活動ができる場を提供 ・ 閉校した下和田小学校の思い出を伝え、交流できる場の提供 4) 伝統文化・国際交流・環境配慮等に関するイベントの企画等 ①日本の伝統文化を伝えるため、地域の方の協力のもとに事業を実施 ②地域に生きる外国籍の方々との協力を基本として活動を推進 ③地域の方との協力や学校との連携の中で環境美化やリサイクル工作、グリーンカーテン作りなどを実施 5) 情報発信事業 ・ HP や地域回覧用の広報誌や小学生向けのお知らせなどを作成し情報発信	
令和3年度 事業実施の 経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
		別紙のとおり

(注1)：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 — 市負担金

(注2)：市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和3年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1	(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1
上半期は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う緊急事態宣言等の影響によって閉館の日数が多く予定した事業等はほとんどできなかった。 下半期については何とか開催できた事業も多く、コロナ禍にも関わらず多くの参加者に来ていただいた。	新型コロナウイルス感染拡大を受け、上半期(4月～9月)は4月28日～6月20日、7月22日～7月31日、8月26日～9月30日が休館となり、学校開放や講座等の事業を予定どおり実施できない状況であった。下半期(10月～3月)は、アレンジフラワー、しめなわ作り、サタデーチャレンジルームなど多くの事業を実施することができた。 緊急事態宣言による休館や、多くの制限がある状況の中で、渋谷中学校とも連携し、渋谷中学校の生徒や地域住民の生涯学習を推進することができた。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1	(採点) 5・ <u>4</u> ・3・2・1
飲食を伴う事業についてはやはり開催できなかったが、それ以外の事業について募集人数を減らして開催できた。	新型コロナウイルス感染拡大により、休館期間中は予定していた事業を実施できなかったが、開館期間については消毒や検温など感染予防をすることで安全に講座等の事業を実施することができた。 広報やまと、下和田の郷通信、ホームページ等で講座など事業の周知を行った。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) <u>5</u> ・4・3・2・1	(採点) <u>5</u> ・4・3・2・1
前年度同様に開催できた事業は減ってしまったが無事開催できた。	予算の範囲内で事業を実施することができた。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
市担当課の方々とコロナ感染防止等対応などでコミュニケーションもとれ、また運営についてのアドバイスなども頂いた。コロナ禍の中で逆に良い関係を築くことができた。	市の担当者と事業者で運営方法や事業内容等について定期的に話し合う機会を設けることでコミュニケーションをとり、新規講座の企画や、下和田の郷通信の翻訳版発行に向けた準備を行うことができた。 新型コロナウイルス感染症に対する対応など、迅速に情報共有を行うことで、不測の事態にも柔軟に対応することができた。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
2年余りのコロナ禍の中でも事業に参加してくれる方々は沢山おり開館を待っていただいている状況でもある。その代わり2年間で地域の子供達からの認知が落ちてしまったように感じる。再度認知アップに努める必要がある。	新型コロナウイルスの感染状況によって今後の見通しがつきにくい状況であり、引き続き感染状況を注視しながら運営方法や事業内容について検討していく必要がある。 令和4年度から夜間の施設管理をシルバー人材センターに委託するため、事業者と協力して業務の引き継ぎ等を行い、円滑に事業を運営できるよう努めていく。

2021年度事業実施状況

網掛け箇所については新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全て中止となりました

自主事業

対象	事業名	曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施内容
小・中学生	ディスプレイ	不定期			30日	1日 7日					8日 18日				季節にあわせた飾り付けを利用者と共に行う（七夕飾りやクリスマス飾り等）
	アレンジフラワー	水				1日				11日			2日		花を使って自由に表現するアレンジフラワー
	デジタルクラフト	日	毎週日曜日												PCを使った制作通じPC使い方や遊び方を学ぶ（ペーパークラフトなど）
	おしるこづくり	日										16日			食を通じた交流
	UNO/カルタ大会	日										16日			ルールを守り、みんなで楽しく交流することを学ぶ場
	カレンダー作り	不定期									4日 5日				子ども達と一緒に翌月の予定表を作成し、フリースペースを飾りつける
	武道場で遊ぼう	日													広い場所で思い切り遊ぶ場を提供する（バドミントンなど）
	夏祭り	日					日時 未定								ミニゲームと一緒に楽しみ、かき氷を食べる
	スクリーンを使って	第2・4 （日）	11日 25日	9日 23日	13日 27日	11日 25日	毎週	12日 26日	10日 24日	14日 28日	12日 19日	9日 23日	13日 27日	6日 13日	子どもとスタッフの協力による映画上映会
小中・一般	みんなで大掃除	日				4日					5日				普段使用している場所をスタッフと利用者一緒に大掃除
	しめなわ作り	日									26日				地域に住む方に伝統的なしめ縄の作り方を学ぶ
一般	布わらじ作り	水・木				7日 8日									スタッフが講師となり不要になった布を再利用したわらじ作りを行う

共催事業

対象	事業名	曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施内容
主に小学生	切り絵あそび	日				25日									地域のひとと参加者との切り絵を通じた交流の場
	おたのしみ工作					11日			17日		5日		6日		簡単に始められるハンドメイドを学ぶ
	書初め教室	水										5日			新年の書初めを行い落ち着きと集中力を養う
一般	男の料理教室	日													成人男性が一人でも栄養のバランスのとれた食事が作れるような料理講習会
	押し花	火				13日				9日					利用団体の方々と参加者が一緒に押し花を通じて交流を図る場
	ウクレレ教室	月（毎週）	4月-6月毎週（月）												ウクレレ演奏を通じて心身の健康保持を促進する
	PCなんでも相談室	第3（木）	22日	20日	17日	15日	19日	23日	21日	18日	16日	20日	17日	10日	市民や利用団体のPCスキルの向上
	書道教室	水										5日			写経を通じ集中力や手先の感覚を鍛える
	健康測定	月									6日				健康普及委員による、歩行姿勢の測定会
	織り輪	木			24日				28日						麻ヒモでの織物や裂き織り体験
	フラダンス教室	火（毎週）										13日 20日	10日 17日		音楽にあわせて体を動かし、地域のひととフラを通じての交流の場

支援事業

対象	事業名	曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施内容
中学生	サタデー・チャレンジルーム	土	毎週土曜日												渋谷中学校の先生が行っている生徒への学習支援

10. 移動制約者の外出介助サービス事業

事業名称	移動制約者の外出介助サービス事業	
事業者	特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブ ケアビーくる	
市担当課	障がい福祉課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	18年（令和3年度を含む）	
令和3年度 決算予定	事業者の負担額（注1）：約11,641,000円 市担当課の執行額（注2）：177,776円	
事業の目的	ひとりでは公共の交通機関を使えない障がい児者や高齢者などの移動制約者が、外出時の困難や不安を解消し、社会参加の促進が図られることを目的とする。	
事業の内容	福祉有償運送の位置づけ。主に車を使い、会員制、予約制で様々な要望に応じて介助付きの移動サービスを実施。通院や入退院、通所、ショートステイ、買物、墓参など。必要に応じて、ベッドtoベッド、車椅子に乗ったままでの階段の乗降（複数人に対応）などにも対応。 会所有：福祉車両4台（リフト式3台、スロープ式1台）、ストレッチャー、フルリクライニング車いす、車いす（5台）、段差用スロープなど	
令和3年度 事業実施の 経過	実施日時	実施内容 （イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください）
	通年	利用会員（移動制約のある高齢者や障がいのある方々）に、主に車を使って介助付き移動サービスを実施しました。 昨年度からの継続会員：172名 今年度の新規会員：112名 計：284名 利用回数：6,213回 利用者延べ人数：3,939人 （通院等4,031回、通所等591回、その他1,591回） コロナ禍の中、利用者とメンバーの安全確保のため、引き続き予防対策をとりました。まん延防止等措置宣言下では、病院内付添を原則お断りし送迎のみのサービスを実施し、活動を続けました。ただし利用者の状況により対応の可否を判断したうえで可能な場合は付添もおこないました。 インターネットも活用しながら、メンバー間での意思疎通を図り、毎月の定例会もできるだけ開催し、課題解決を図りました。 福祉車両の定期点検・車検・修理。冬タイヤ装着。 必要に応じて講習の受講、内部研修を実施しました。 （安全運転管理者講習、運転技能研修など）

4 月 17 日	大和市協働事業提案書提出
4 月 24 日	大和市指定NP0更新申請
4 月 27 日	福祉車両3台 冬タイヤから履き替え
5 月 23 日	第24回通常総会（書面開催）
7 月 29 日	日本財団福祉車両助成申請
7 月、8 月	福祉車両4台、それぞれの6ヵ月点検
9 月 21～30 日	ハイエースリフト修理
10 月 6 日	共同募金協力（街頭募金は自粛）
10 月 11～27 日	N-BOX 修理
10 月 26 日	共同募金協力（街頭募金は自粛）
12 月 8 日	大和市地域公共交通協議会出席
12 月 13 日	日本財団福祉車両助成決定
12 月 22 日	福祉車両3台の駐車禁止除外指定更新手続き
12 月 25 日 27 日	福祉車両3台冬タイヤに履き替え
12 月 28 日	大和市指定NP0更新（条例改正）
1 月、2 月	福祉車両 3 台、それぞれの車検
2 月 14 日	キャラバン：秦野市内の NP0 法人に譲渡
3 月	日本財団助成のキャラバン納車（予定）

（注 1）：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

（注 2）：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和3年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 移動制約者の社会参加促進を目的とするという共通意識をもったうえで、事業を遂行することができました。コロナワクチン接種をきっかけとした新たな入会もあり、入会者数は目標を上回りました。今年度も多くの利用者や家族から感謝の言葉を頂きながら活動できました。	(コメント) 昨年度同様、コロナ禍において、日常と異なる状況下の中であっても、この事業を必要とする方々に対し、必要な対策をとった上で、事業を遂行することができました。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) コロナ禍、利用者やメンバーの安全を図りながら、利用者のニーズにできる限り応え、活動しました。関係事業所などとも連絡を密にとり、きめ細やかなサービスが提供できたと考えます。	(コメント) 昨年度同様、コロナ禍で利用者が様々な不安を抱える中で、事業者は個々の利用者のニーズに配慮し、円滑に事業を実施できました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 予てから懸案であった老朽化した福祉車の更新について、7月に申請していた日本財団の助成が決まり、年度末に新しい福祉車が納車されます。 コロナ禍の対応としては、昨年度受けた助成を生かし感染症予防のためのアルコール消毒薬やマスクの購入ができました。県からの感染予防グッズの支給も始まりました。事業計画にそったサービスを実施し、予算通りの活動ができました。	(コメント) 市は事業者に対して、車両維持のための負担金を支出していますが、コロナ禍においては効率面の低下による経費の増加もあり状況が厳しい中、補助金を活用するなど、運営面でも事業者の努力で対応していただいております。 事業者が主体的に努力し、事業計画にそったサービスを提供することができました。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 市から駐車場と備品の保管場所の提供を受けていることは、会の経営・運営・社会的信用上、不可欠です。広報やまとや、ボランティア総合案内所などで市民への情報提供をしていただき、1名のボランティアの参加や新たな利用開始もありました。 市主催の運転者講習会の開催について、要望を出しています。	(コメント) 広報やまとや障がい福祉課ホームページ、窓口で配布している「障がい福祉のてびき」にも案内を掲載し周知に努めています。事業者と行政それぞれが役割を果たし、疑義が生じた際にも密に連絡を取り合うことで安定して事業が展開されました。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
昨年度末に加わったメンバーが内部研修を経て、サービスに従事しています。また市のボランティア案内所がきっかけで新たなメンバーが1名増えました。しかし、働き盛りの年齢の会員が本会の活動に軸足を置くことは経済的にも無理があります。一方、長年のメンバーも歳を重ねてきて、専任で常時携われる担い手の不足は恒常化しています。このままでは3年後には本会の活動が今のように継続できるか危ぶまれます。メンバーの拡充が喫緊の課題です。 福祉有償運送を、協働事業で実施する意味と必要性を勘案し、担い手の拡充に向けてもう一歩踏み込んだ対応(以前からお願いしている市主催の運転者講習会を考えていただくなど)、一層の協働の強化を切望します。	利用者とともに、事業者の構成メンバーも高齢化しており、世代交代や新規のメンバーの確保が急務であることは、本事業を提案いただいている3法人ともに共通の課題であります。市担当課として、法人の活動を、より多くの市民へ理解を頂き知っていただくためにも、より一層の周知に努めていきます。 また、引き続きコロナ禍の状況がしばらく続くとみられる中、課題を共有し、今後も事業者と連携を図ってまいります。

11. 移動制約者の外出介助サービス事業

事業名称	移動制約者の外出介助サービス事業	
事業者	特定非営利活動法人 大和市腎友会	
市担当課	障がい福祉課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	18年（令和3年度を含む）	
令和3年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 3,783,506円 市担当課の執行額（注2）： 177,776円	
事業の目的	障がい児者・高齢者などの移動困難者が、外出時の困難や不安を解消し、社会参加の促進が図れることを目的とする。	
事業の内容	福祉有償運送事業者として、所有の福祉車両4台によりサービスを提供。対象者は、介助なしでは移動が困難で、単独で公共交通機関の利用が困難な人。利用は、会員制の予約方式で、障害者手帳、介護保険手帳など移動困難者と認められるものがあれば入会でき、年会費、利用の都度の利用料金をお支払いいただき、あらゆる外出に利用可能。	
令和3年度 事業実施の 経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	通年（除日曜） 3. 5. 28 3. 8. 20 3. 11. 21 3. 5. 16 3. 6. 13 3. 7. 14 3. 7. 18 3. 9. 5 3. 9. 26 3. 9. 27 4. 1. 31	【送迎実績】4/1～12/31 移動制約者の送迎／2,076件 16,679km 【イベント】 福祉有償運送制度説明会／2名 安全運転講習／28名 第23期事業年度定期総会 【募集・広報】 ドライバー求人広告掲載（県央東地域） // // // // // // 広報誌「やまとじんゆう」82号発刊 // 83号発刊

（注1）：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

（注2）：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和3年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 障がいを抱え、週3回の通院治療が欠かせない透析患者にとって、「通院手段の確保」は切実な課題である。 当会では、「透析者の命と暮らしを守り、障がい者が安心できる通院を支える」理念のもと、利用者の環境の変化に柔軟に対応し、利用者に寄り添った送迎サービスを実施した。また、移動に制約があることで社会参加の機会が少なく孤立しがちになるが、サービスを通じて身近な繋がりができ、地域や社会的交流の促進を促すことができた。	(コメント) コロナ禍において、前年同様例年と異なる状況下の中であっても、この事業を必要とする方々に対し必要な対策を取ったうえで、事業を遂行することができました。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 感染症対策に奔走した1年だった。これまで「あたり前であった日常生活」が大きく変化した年だったと認識。利用者が安心してサービスが利用できるよう「送迎時の感染防止」と「安全運行」を両立。かつて経験したことのない課題だったが、感染が発生することなく円滑に事業運営ができた。 送迎スタッフは、丁寧なコミュニケーションを取るよう心がけている。利用者の会話や乗り降りの様子から、体調や精神面での変化の有無をチェックするなど心のケアや見守りの役割も担っている。	(コメント) 前年度と同様、例年と異なり利用者が様々な不安を抱える中で、事業者は個々の利用者のニーズに配慮しています。特に、本事業者を利用する方は基礎疾患のある方が多く、コロナ禍においてより一層の対策をされ、細かい配慮に努めておりました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課
（採点） 5・④・3・2・1	（採点） 5・④・3・2・1
（コメント） 福祉有償運送事業は、低料金設定から事業を継続していくための十分な収益を得ることができていない。解決するために料金値上げを実施することが最も簡単な手段であるが、収入面で厳しい利用者のためのサービスであることから軽々に行なう事ができない。送迎効率を考慮した配車を念頭に置いた運行体制を展開し収益力の改善を図りたい。	（コメント） 市は事業者に対して、車両維持のための負担金を支出していますが、コロナ禍においては効率面の低下による経費の増加もあり、状況が非常に厳しい中、運営面でも事業者の努力で対応しています。 次年度も引き続き、事業者主体による運営努力を継続していただけるよう市担当課も側面から支援していきたいと考えております。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
（採点） ⑤・4・3・2・1	（採点） ⑤・4・3・2・1
（コメント） 認知度の低い福祉有償運送を行政からの多様な媒体を活用した情報発信により、既存の公共交通機関、市の移動支援サービスを利用しづらい方の移動手段の選択肢を広げることに貢献できた。また、事業運営面で協働事業負担金や駐車場確保といった必要な事項について、相互が協力・連携することを通じて円滑に事業を実施することができた。	（コメント） 広報やまことや障がい福祉課ホームページ、窓口で配布している「障がい福祉のてびき」にも案内を掲載し周知に努めています。事業者と行政それぞれが役割を果たし、疑義が生じた際にも密に連絡を取り合うことで安定して事業が展開されました。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
透析患者の高齢化により、移送サービスの利用希望者の増加が見込まれる。今後の課題として、サービス利用に関する取り決め及び運行体制の見直しが必要。 一方で、運転協力者の高齢化が進み、今後事業を継続するに少なからず支障がでてくるものと思われる。今後の移送サービス拡充に向けて、運転協力者を確保し育成していくことが喫緊の課題である。	利用者とともに、事業者の構成メンバーも高齢化しており、世代交代や新規のメンバーの確保が急務であることは、本事業を提案いただいている3法人ともに共通の課題であります。市担当課として、法人の活動を、より多くの市民へ理解を頂き知っていただくためにも、より一層の周知に努めていきます。 また、コロナ禍の状況がしばらく続くとみられる中、課題を共有し、今後も事業者と連携を図ってまいります。

12. 移動制約者の外出介助サービス事業

事業名称	移動制約者の外出介助サービス事業	
事業者	特定非営利活動法人 たんぽぽ	
市担当課	障がい福祉課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	15年（令和3年度を含む）	
令和3年度 決算予定	事業者の負担額（注1）：1,200,000円 市担当課の執行額（注2）：44,444円	
事業の目的	○外出困難者への介助支援 ・障がい者・高齢者の移動制約者が外出の際の困難や不安感を軽減し安心して社会参加の促進がはかれることを目的とする。	
事業の内容	○特定営利活動有償移動サービス ・介助付きの外出サービス事業を安定して提供すること。	
令和3年度 事業実施の 経過	実施日時	実施内容 （イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください）
	令和3年4月1日 令和4年3月31日	・送迎実績550件程度 ・スタッフ10名 ・定例会（毎月月末開催） ・総会（年1回） 障がい者・高齢者など、一人では外出できない方々に、外出する機会を得て頂きたいと考え、事業を実施してまいりました。 外出サービスを利用される方々への安全と安心の提供を図ることを常に心がけています。 通常の公共交通機関の利用が難しい方たちの大切な手段として利用頂きました ※現在運転会員7名で実施しています。 稼働率（車両）は、昨年度の約80%位と見込んでいます。 稼働率の低下の原因としてコロナ過における外出自粛が考えられます。また、病院、介護施設と行動範囲が限られており、利用者が主体的に外出を自粛していると強く感じます。

（注1）：事業者の負担額 ＝ 協働事業にかかった全費用 － 市負担金

（注2）：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和3年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) コロナ禍による感染拡大において利用者の減少と新規増員が見込めませんが、移動困難な方々への社会参加への促進ができたと考えております。	(コメント) コロナ禍において、前年同様例年と異なる状況下の中であっても、この事業を必要とする方々に対し必要な対策を取ったうえで、事業を遂行することができました。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 利用者の減少により収益見込めず例年より減収減益となる見込みだが、利用者にとって安全で安心した外出サービスを提供できました。	(コメント) 前年度と同様、例年と異なり利用者が様々な不安を抱える中で、事業者は個々の利用者のニーズに配慮しています。この事業を必要とする方々に対して、コロナ禍におけるより一層の対策を講じ、本年度も細かい配慮に努めておりました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 収益減少と共に設備費増加(車の維持管理に運営困難を要す)がありましたが、事業努力で難局を乗り越えました。	(コメント) 市は事業者に対して、車両維持のための負担金を支出していますが、コロナ禍においては効率面の低下による経費の増加もあり、状況が非常に厳しい中、運営面でも事業者の努力で対応しています。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) ⑤・４・３・２・１	(採点) ⑤・４・３・２・１
(コメント) １．福祉車両券、タクシー券による利用者、及び事業者にとって、資金への援助と成っています。 ２．一部の車両重量税、駐車場の提供において助かっております。 今後も事業者と行政が共通の目的意識をもつことで円滑に事業を遂行できるよう努力しました。	(コメント) 広報やまことや障がい福祉課ホームページ、窓口で配布している「障がい福祉のてびき」にも案内を掲載し周知に努めています。事業者と行政それぞれが役割を果たし、疑義が生じた際にも密に連絡を取り合うことで安定して事業が展開されました。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
高齢化に伴い、若返りを図る必要があり、魅力ある組織作りが望む所です。 改善のポイントとしては、福祉車両の増車と運転要員の確保、高齢者の利用が多く見込まれることからの介助要員の確保と対応の見直しが検討課題として挙げられます。	利用者とともに、事業者の構成メンバーも高齢化しており、世代交代や新規のメンバーの確保が急務であることは、本事業を提案いただいている３法人ともに共通の課題であります。市担当課として、法人の活動を、より多くの市民へ理解を頂き知っていただくためにも、より一層の周知に努めていきます。 また、コロナ禍の状況がしばらく続くとみられる中、課題を共有し、今後も事業者と連携を図ってまいります。

13. みんなでつくろう安心のまち事業

事業名称	みんなで作ろう安心のまち事業	
事業者	大和女性防犯会	
市担当課	生活あんしん課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	12年(令和3年度を含む)	
令和3年度 決算予定	事業者の負担額(注1): 77 円 市担当課の執行額(注2): 532,000 円	
事業の目的	大和警察署・大和市防犯協会・防犯指導員等と協力して、積極的に地域の防犯活動に参加して、犯罪のない明るく住みよいまちづくりを推進すること。	
事業の内容	(1) 防犯キャンペーン及びパトロールの実施 (2) 防犯に関する座談会及び講演会の開催 (3) 防犯広報資料の作成及び配布 (4) 子どもの見守り活動、防犯教室の開催 (5) 高齢者の被害防止活動と指導 (6) その他の防犯活動への参加と情報の交換	
令和3年度 事業実施の 経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	4月～3月	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当会の主な活動である防犯キャンペーン、歓楽街対策パトロール等や、大和市民まつりやふれあい広場等の市や地域の行事が全て中止となり、市民の皆さんに対する直接的な防犯活動を実施することがほぼ出来なかった。 今年度も、毎月会員に文書や防犯チラシを郵送等で配布し、犯罪発生状況等の情報共有、防犯意識の高揚を図った。 また、協働事業負担金を活用し、プロレスリング・ノア所属モハメド・ヨネ氏に協力を仰ぎ、防犯キャラクターとしてポスター・防犯チラシを作成。大和市内個別配布・相鉄バス車内広告各金融機関へ配布、地域防犯連絡所へ配布等、他の防犯団体とも連携して広報啓発を行った。 昨年度協働事業負担金で購入したデジタルサイネージ(電子看板)を大和警察署1Fに掲示し、来庁者に向けて防犯チラシや当会の活動紹介を盛り込んだ『見るだけでわかる防犯活動』を引き続き行った。 唯一直接的な防犯活動として、12月8日神奈川県警本部・神奈川県女性防犯連絡協議会と合同で、FMヨコハマ街角リポーターの藤田優一氏を招き、『一日警察署長』としてシリアスにて防犯講話、大和駅前で防犯キャンペーンを行った。 (イベント参加者 500名…駅前通行人 スタッフ…一日警察署長・県警本部・大和署員15名、県女性

		防 20 名、大和女性防 10 名)
--	--	--------------------

(注 1) : 事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 — 市負担金

(注 2) : 市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和 3 年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5 : できた 4 : ややできた 3 : どちらでもない 2 : ややできなかった 1 : できなかった)

・ 目的を達成することができましたか (目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・④・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、防犯キャンペーン等の直接的な防犯活動がほぼ実施出来なかった。 代替策として、昨年同様郵送資料による防犯情報の共有、会員を通じて地域自治会に防犯チラシ配布協力依頼・ポスティングを行った。 大和警察署 1 階ホールにて、引き続きデジタルサイネージを活用した防犯広報活動を実施。 その他に、県警本部・県女性防犯会等他団体と協力した防犯キャンペーン・防犯ポスター作成等、コロナ禍でも活動の幅を広げることが出来た。 また、協働事業負担金を活用し、オリジナルのポスター・防犯チラシを作成。金融機関や大和市内各地区に配布・掲示依頼。相鉄バスに協力をいただき、車内にも掲示してもらった。 感染のリスクを出来る限り避ける中で出来る防犯活動を実施した 1 年だった。	(コメント) 新型コロナウイルス感染症拡大により、予定していたキャンペーン等が中止となり、思うような活動は出来なかったが、広報啓発活動の一環として、昨年購入したデジタルサイネージを活用し、ワクチン接種会場等において特殊詐欺対策を広く周知した。 また、昨年と同様に、新たな防犯対策として、女性防犯会会員を通じて地域自治会へのチラシ配布依頼、ポスティング等、接触しない感染リスクを避けた情報発信活動などを実施し、犯罪発生状況や詐欺の手口等を周知した。 市内の刑法犯認知件数は、6 年連続で減少した他、平成 30 年に最多被害を記録した特殊詐欺は、最新手口の周知や各防犯活動等により当時と比較し、件数、被害額ともに半減した。 制限された活動の中ではあるが、協働というかたちで創意工夫して、少しでも防犯活動ができたことから、概ね目標を達成したと言える。

・ 予定した方法により事業が実施できましたか (実施手法)

事業者	市担当課
(採点) 5・④・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 昨年に引き続き、感染対策で防犯キャンペーンは 1 度しか実施出来なかったが、県警本部や県女性防等と合同で行い、コロナ禍での防犯活動について話し合うことが出来た。 郵送による防犯チラシの配布依頼、デジタルサイネージを活用した、見るだけでわかる防犯啓発活動等、昨年と同様に実施した。	(コメント) 新型コロナウイルス感染症拡大により、予定した方法による事業の実施は出来なかった。 しかし、感染リスクを避けた防犯活動として、ワクチン接種会場にデジタルサイネージを設置する他、防犯啓発ポスターを掲示する等、見るだけでわかる防犯啓発活動等を実施した。 また、防犯チラシ等を配布することで、広く啓発活動を行った。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課
（採点） 5・④・3・2・1	（採点） 5・4・③・2・1
（コメント） 市民まつりやふれあい広場等の多くの住民が集う行事が全て中止となり、防犯キャンペーン等も実施出来なかったため、啓発品購入減。 バス研修会も未実施。 出来る防犯活動として、会員に防犯チラシの配布等を郵送で依頼・実施。 他には、協働事業負担金を活用し、プロレスリング・ノア所属モハメド・ヨネ氏に協力を仰ぎ、防犯キャラクターとしてポスター・防犯チラシを作成。 大和市内へ個別配布・相鉄バス車内広告各金融機関へ配布、地域防犯連絡所へ配布等、他の防犯団体とも連携して広報啓発活動を行った。	（コメント） 市民まつりや防犯キャンペーン等が中止となったことから、物品購入費を減額し、防犯啓発ポスターを作製、市内各所に掲示し、防犯を呼びかけた。 今後も、事業者と密に打ち合わせを行い、継続して効果的な事業を進めていきたい。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
（採点） ⑤・4・3・2・1	（採点） 5・④・3・2・1
（コメント） 今年度も新型コロナウイルスの影響で様々な防犯活動の中止が相次ぎ、研修会も実施出来ず文書だけの情報共有となったが、そんな中、県警本部や県女性防等他団体と協力した活動を行うことが出来た。 県警本部・県女性防と合同の防犯活動では、大和市生活あんしん課の協力でシリウスの会議室を利用し、大和警察署員・FM ヨコハマ街角リポーター藤田優一氏による『コロナ禍における防犯活動』をテーマに講演を感染対策の上、県内の女性防犯ボランティア・大和女性防犯会員（一部）に向けて実施。 その後大和駅前にて他の大和女性防犯会会員も加わり、防犯キャンペーンを実施。 感染対策をしながらでも出来る防犯活動について学ぶことが出来た。 また、協働事業負担金を活用し、防犯ポスターと防犯チラシを作成。 掲示場所の状況にあった様々なサイズの防犯チラシ・防犯ポスターを作成。 地域の皆さんに配布することはもちろん、大和	（コメント） 予定していたキャンペーン等の多くが中止となったが、県警本部、大和警察、大和市、女性防犯会等が協力した防犯キャンペーンを実施することが出来た。 警察及び女性防犯会で企画したキャンペーンに大和市（行政）がシリウスの会議室（場所）や備品を提供し、警察本部が、学生ボランティアの参加を呼び掛ける等のバックアップをし、大規模なイベントとなった。 また、県内各地区の女性防犯会の多数の参加者を募り、幅広い情報発信につながった。 事業者だけでは、発信する機会や発信する情報が少なく、警察や行政から発信される情報等が必要となる。 行政も、事業に参加できる人員に限りがあり、事業者等の協力がなければ、キャンペーン等の実施は難しい。 よって、行政と事業者さらには警察等が協働で事業を行うことにより、より効果的な防犯活動等が出来る。

市の施設・自治会掲示板・各金融機関、他にも相鉄バスへ協力を依頼、市内のいろいろな場所で掲示することで幅広く防犯啓発することが出来た。	
--	--

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
昨年度・今年度と研修会が実施できなかった。バス研修会は無理かもしれないが、大和警察署講堂等の広い会場で、感染対策をとって実施していきたい。 来年度は委嘱替えの年なので、欠員分を補充出来るよう、積極的に働きかけたい。	協働事業の効果もあり、大和市の犯罪認知件数は、6年連続で減少し、ピークであった平成15年の16%まで減少しており、市民の体感治安は向上していると考ええる。 増加の一途をたどっていた特殊詐欺（振り込め詐欺）についても、過去最も被害の多かった平成30年と比較し、被害件数は117件から61件に半数近く減少、被害額についても2億1,200万円から8,800万円と3分の1近くの減額となった。 現状として、協働事業としての効果は非常に高いと考えられる。 しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな生活様式が定着し、防犯啓発活動についても大きな変化が求められる部分もある。 人が声を上げて、防犯を呼びかけることも、一つの手段ではあるが、書面配布やSNS等を通じた情報発信活動、デジタルサイネージを活用した見せる防犯活動を取り入れ、より協働事業として効果的な防犯活動を模索する必要がある。



協働事業に関するお問い合わせは

大和市役所 市民活動課

協働・ボランティア・県人会・市民活動支援係

☎046-260-5103

大和市民活動センター

☎046-260-2586